

## 看護 GP 事業教育指導者育成プログラム 「看護学生を対象とした看護セミナー」の評価

佐藤富美子<sup>1</sup>, 浦山美輪<sup>2</sup>, 早川ひと美<sup>2</sup>, 岡村由紀子<sup>2</sup>, 佐々木百合花<sup>2</sup>,  
庄子由美<sup>2</sup>, 小山田信子<sup>1</sup>, 亀岡淳一<sup>3</sup>, 門間典子<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻看護学コース, <sup>2</sup> 東北大学病院 看護部,

<sup>3</sup> 東北大学大学院医学系研究科 医学教育推進センター

### Assessment of “Nursing Seminar for Nursing Students”, an Educational Leader Cultivation Program of the Nursing Good Practice (GP) Project

Fumiko SATO<sup>1</sup>, Miwa URAYAMA<sup>2</sup>, Hitomi HAYAKAWA<sup>2</sup>, Yukiko OKAMURA<sup>2</sup>, Yuri SASAKI<sup>2</sup>, Yumi SHOJI<sup>2</sup>,  
Nobuko OYAMADA<sup>1</sup>, Junichi KAMEOKA<sup>3</sup> and Noriko MONMA<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Course of Nursing, Health Sciences, Tohoku University Graduate School of Medicine

<sup>2</sup>Division of Nursing, Tohoku University Hospital

<sup>3</sup>Office of Medical Education, Tohoku University Graduate School of Medicine

Key words : Clinical nurse, Education ability, Educational leader, Education training, Education evaluation

In order to cultivate nurses capable of establishing a lifelong career and continuing to work actively, it is necessary to promote the educational ability. The objective of the present study was to analyze the assessment of the “Nursing seminar for nursing students”, a project within the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)’s nursing Good Practice (GP) project educational leader cultivation program, and to discuss the cultivation of the educational ability of clinical nurses. Subjects were 11 nurses conducting the nursing seminar, 40 nursing university students attending the seminar, and a total of 30 teachers consisting of nursing university teachers and nurse administrators. The combined proportion of “very good” and “good” was 100% for six of the 12 items assessed by the nurses implementing the seminar, including selection of educational methods in consideration of the readiness of learners, time allocation of seminar contents, and the appropriateness of use of audiovisual aids. Among seminar attendees, all seminar attendees provided an assessment of “very good” or “good” for nine of 10 items. Among teachers, all teachers provided an assessment of “was well done” or “was very well done” for the two items of “able to show learners what kind of learning is necessary” and “able to select suitable educational methods for learners”. The high assessments obtained indicate that students in a basic nursing education course with a uniform readiness had been selected as learners, lectures and exercises necessary for the seminar project had been scheduled in parallel with the project, and that the educational program had been planned in stages so as to enable learners to acquire educational skills based on practical ability.

## はじめに

生涯にわたってキャリアを構築し、活き活きと働き続けていく看護師を育成するためには、その役割の一端を担う看護師の教育力を高める必要がある。看護師の教育力には、看護実践能力や倫理的感性、人間性、対人関係力の要素など専門職業人としての能力をはじめとして、専門領域に関する教育内容の理解と教授する力が求められる<sup>1)</sup>。しかし、教育力の獲得は看護師個人の努力や職場の教育環境に任せられ、教育指導者を育成する体系的な教育プログラムの開発と実践が求められる。

文部科学省は、平成21年度から5年計画で大病院看護部と自大学看護学部が連携して、臨床研修方法や体制等を学問的検討によって開発し、臨床の看護職及び基礎教育課程の教育レベル向上を目的とする「看護職キャリアシステム構築プラン」事業を開始した<sup>2)</sup>。この事業は医師不足や看護師の早期離職率の高さを背景に、社会の期待に対応できる看護実践能力を備えた人材育成と、継続した臨床研修によって看護師の就業継続を促進するねらいがある。本事業に採択された東北大学「看護キャリアプロモート支援システム開発～臨床看護師の教育力向上とキャリアパス構築支援」は、臨床看護師の看護実践能力の向上とキャリアパスの選択を自らプロモートできるシステムの構築を目的とするものである<sup>3)</sup>。本プランにおける看護実践能力とは、自己と他者の成長を促す教育力と、一般病棟における重症患者に対応する実践能力を示す。看護実践能力に包括した教育力を、「自ら学ぶ姿勢を持ち続け、他者の学びを導き支える力」と定義した。これらの能力を備える人材育成のためには、自ら学ぶ姿勢を培い、個人の成長からチームの成長、チームの成長から組織の成長へと発展を促す組織的な教育体制と教育プログラムが必要とされる。

大河原ら<sup>4)</sup>は、臨床で教育的役割を担う看護師を対象に教育力の特徴を質的に分析した結果、教育に対する新たな知識や方法の獲得のみならず、リフレクションや看護師として大切にしている信

念の表現、内発的動機づけによって看護実践経験を教育力に変換し、看護師育成に活かしていると報告している。臨床看護師に必要な教育力育成には、臨床看護経験を教育に活かす体験にし、その体験を臨床で活かすプロセスが教育力を培うことになると言えよう。本教育指導者育成プログラムは、このような臨床看護経験を教育力に変換させるために、経験学習理論に基づく“実践と内省のサイクル”を集合教育と臨床教育双方で展開できる体制を構築した。

本調査は、本教育指導者育成プログラムの企画である「看護学生を対象とした看護セミナー」の評価および看護セミナー実施後の臨床における活用状況を分析し、臨床看護師の教育力育成について考察することを目的とする。

## 方 法

### 1. 教育指導者育成プログラムと看護セミナー

東北大学教育指導者育成プログラムは、クリティカルケア実践能力を身につけた教育指導者を目指す看護師が体系的に学習できるように計画した。ここでは、教育力を高める教育プログラムについて説明する。

教育力は初級・中級コースを基盤に上級コースで教育指導スキルを習得できるように作成した(図1)。上級1コースの目的は、1) 自ら学ぶ姿勢を持ち続け、自ら率先して課題に取り組むことができる。2) 他者やチームメンバーの学びを引出し、力を発揮できる環境を作り出すことができる。3) クリティカル領域において全体像を把握して予測行動することができる。上級2コースは、上級1コースの目的1)に加え、組織内において自分の立場を理解し、組織に必要な学びを促すことができるとした。これら上級コースのプログラムを表1に示した。研修内容はコースの目的達成に向けて、アサーティブネス、学習者のレディネス把握、コーチング、シミュレーション教育、ナラティブワークなどを含んでいる。「看護学生を対象とした看護セミナー(以下、看護セミナー)」は、「教えることは最大の学び」のタイトルで、上級2コースの教育力プログラムの一環として計

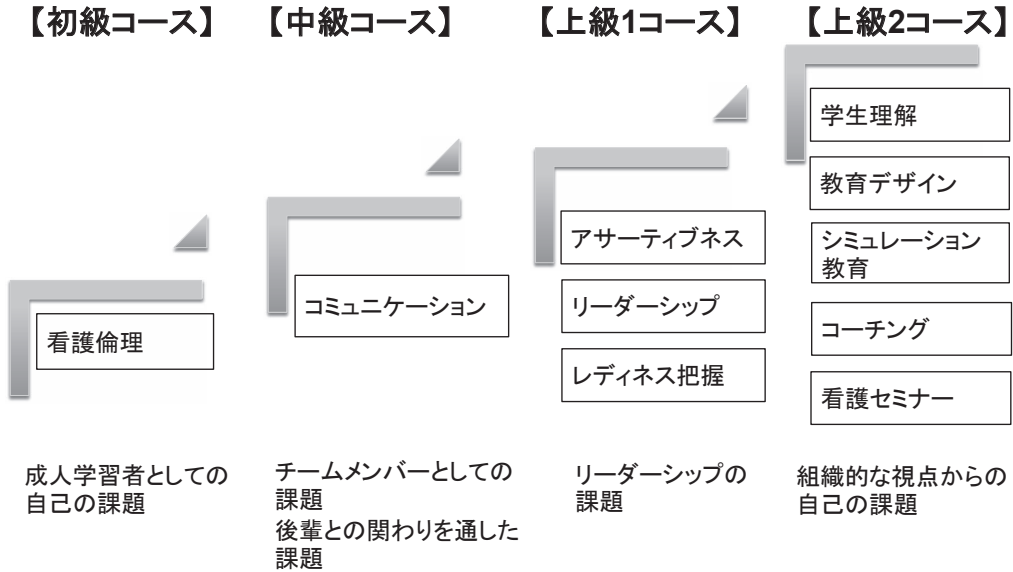


図 1. 教育指導者育成プログラムの概要

表 1. 上級 1・2 コース 教育力プログラム

	研修タイトル	研修内容（抜粋）
上級 1 コース	あなたはどんなリーダーになる？	リーダーシップの定義と理論 リーダーシップのスキルを発揮するためには
	自分も相手も大切に コミュニケーション	アサーティブネスとは 自分の意見や感情を相手に伝える方法
	学ぶこと 教えること	成人学習と成人学習者の特徴 学習者のレディネスの把握
	ナラティブワーク	リーダーシップを発揮した場面を振り返る
上級 2 コース	「基礎教育の今」を知る	基礎教育の概要 学生の特徴 東北大学保健学科授業聴講・演習見学
	教育活動（研修）をデザインする	教育活動（研修）の設計方法，評価
	シミュレーション教育	シミュレーション教育の概要，指導の実際
	コーチング	コーチング概論 基本スキル ロールプレイ
	教えることは最大の学び	看護学生を対象とした看護セミナー 企画，教材作成，プレセミナー，報告会
	ナラティブワーク	教育活動を通した学びを振り返る

画された。

看護セミナーの研修目標は、1) 学習者にどんな学びが必要かを明らかにできる。2) 学習者に

合わせた教育方法を選択できる。3) 教育活動を計画・実施・評価・報告ができる。以上の3点である。看護セミナーと並行して、看護セミナーの

計画立案の段階では学習者のレディネスを把握するために看護基礎教育課程（4年制看護系大学）学生の授業聴講，研修の設計方法，シミュレーション教育，看護セミナー前にはコーチング，セミナー終了後にはグループワークでセミナーを振り返るナラティブワークの研修を組み入れた。

看護セミナーは1グループ看護師2～3名の5グループに編成し，学生8名前後を対象とした90分間でセミナーを企画し，教育実践することを課題にした。看護セミナー企画から報告会までは，テーマ選定と計画立案3.5時間（平成24年5月），教材選択・教材作成7時間（同年7月），プレ看護セミナー7時間（同年9月），看護セミナー90分（同年10月～11月），報告会3.5時間（平成25年1月）でのスケジュールで実施した。看護師が選定・企画した基礎看護技術に関するテーマは，「就職する前にちょっと体験してみよう！採血編」「食事介助～間違い探しから考える」「患者さんとのコミュニケーションの方法を考えてみよう」「手術の後は絶対安静じゃないの？」「寝たきり，麻痺のある患者さんの寝衣交換やってみない？」の5企画であった。看護セミナーを企画した看護師の指導には，教育指導者育成プログラムの運営にあたった教員および看護管理者が担当した。

看護セミナー実施1か月後には報告会を開催し，看護セミナー実施者の振り返りの報告と指導者と教育をテーマにディスカッションを行った。看護セミナー実施者は報告会終了後1か月までに，セミナー全体を振り返り，その学びを臨床にどう活用していくかを記載した学習カードを提出した。

## 2. 調査方法

### 1) 対象

調査対象者は，看護セミナーの実施者11名，受講者40名，指導者のべ30名である。

看護セミナーの実施者は，平成24年度東北大学教育指導者育成プログラムに自主参加した看護師である。受講者は，看護セミナー実施者がセミナーのテーマにそって募集した4年制看護系大学の3年生または4年生である。指導者は，看護セ

ミナーの企画・運営期間内に指導にあたった看護大学教員および看護管理者である。

### 2) 調査方法

データは，自記式質問紙調査法と学習カードから収集した。

質問紙は教育力プログラムにおける看護セミナーの研修目標に準じて作成した。看護セミナーの実施者対象の質問紙は12項目，受講者対象の質問紙は10項目で，「大変そうである」「そうである」「そうではない」「全くそうではない」の4段階評定とした。看護セミナー指導者対象の質問紙は2項目で，「大変良くできた」「良くできた」「もう少し努力が必要である」の3段階評定とした。質問紙はセミナー前に配布し，セミナー終了後にその場で回収した。

学習カードは，看護セミナー報告会終了1か月後に回収した。

### 3) 分析

質問紙のデータは記述統計と，自由記述は「臨床看護師が教育力を高めるための課題は何か」に焦点をあて質的分析を行った。学習カードの記述に関しては，「看護セミナーの学習を臨床にどのように活用したか」に焦点をあて質的分析を行った。質的分析にあたっては，複数の共同研究者間で行い，結果の信頼性を確保した。

### 4) 倫理的配慮

本調査は東北大学病院看護部倫理審査委員会の承認を得て実施した。対象者には，調査目的および方法，データは個人が特定できないように処理すること，調査参加は自由意思であること，調査に参加しない場合でも不利益が生じないことを文書と口頭で説明した。調査の同意は，回答後の質問紙および学習カードの提出によって得られたものとした。

## 結 果

### 1. 対象者別による看護セミナーの評価

#### 1) セミナー実施者の評価

セミナー実施者11名の平均年齢は35歳（範囲：28歳～52歳），平均臨床経験は12年（範囲：6年10か月～30年3か月）であった。セミナー実

看護 GP 事業教育指導者育成プログラムの評価

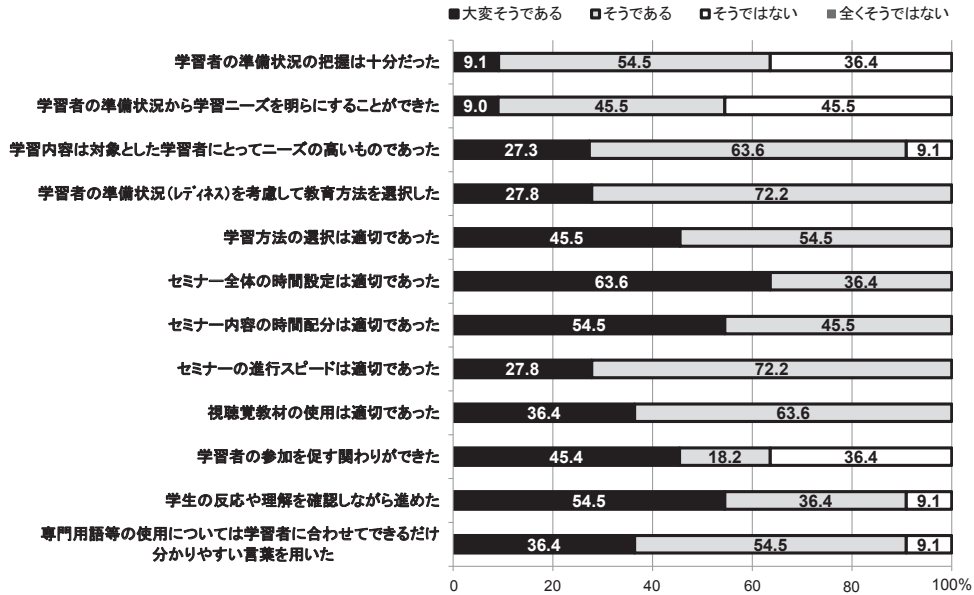


図 2. 看護セミナー実施者の評価 N=11

施者の自己評価の結果を図 2 に示した。自己評価 12 項目のうち「大変そうである」「そうである」の合計割合が 100% の項目は 6 項目あった。それらの項目は、「学習者の準備状況(レディネス)を考慮して教育方法を選択した」「学習方法の選択は適切であった」「セミナー全体の時間設定は適切であった」「セミナー内容の時間配分は適切であった」「セミナーの進行スピードは適切であった」「視聴覚教材の使用は適切であった」であった。全体的には、「学習者の準備状況の把握は十分であった」(63.6%)、「学習者の参加を促す関わりができた」(63.6%)、「学習者の準備状況から学習ニーズを明らかにすることができた」(54.5%) の 3 項目を除いて 90% 以上であった。

2) セミナー受講者の評価

セミナー受講者の評価を図 3 に示した。セミナー受講者 40 名全員が 10 項目中 9 項目を「大変そうである」または「そうである」と評価した。特に「大変そうである」が 80% 以上の項目は、「セミナー全体の時間設定は適切であった」(92.5%)、「セミナーの進行スピードは適切であった」

(87.5%)、「講義やグループワーク・技術演習のそれぞれの配分は適切であった」(85.0%)、「専門用語やなじみのない用語については解説があった」(85.0%)、「学習方法は学びたいと思ったことを学ぶのに効果的な方法であった」(80.0%)、「視聴覚教材の使用は適切であった」(80.0%) の 6 項目であった。1 名(2.5%)が「そうではない」と回答した項目は「参加を促す関わりがあった」であった。

3) セミナー指導者の評価

セミナー指導者の評価を図 4 に示した。指導者のべ 30 名による評価は「学習者にどんな学びが必要かを明らかにできる」「学習者に合わせた教育方法が選択できる」の 2 項目について、全員が「よくできた」または「大変よくできた」と評価し、「もう少し努力が必要である」の評価はなかった。

セミナー指導者の自由記述による評価を質的に分析した結果、DVD、ロールプレイ、グループワークなどを用いた受講者参画型による教育方法の選択および進め方や、臨床現場の現象に興味や関心を抱くような受講生の教育ニーズにあった内容

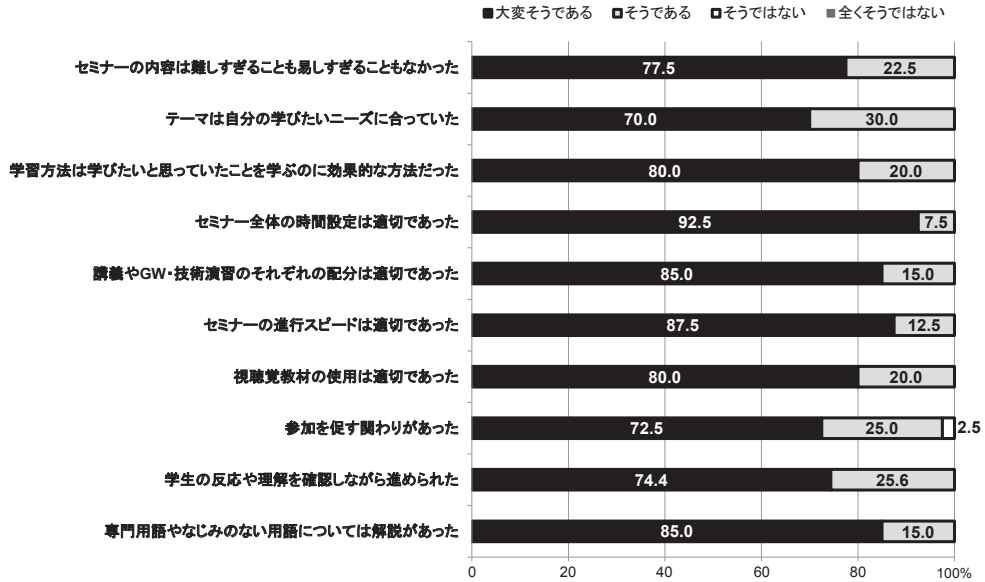


図 3. 看護セミナー受講者の評価 N=40

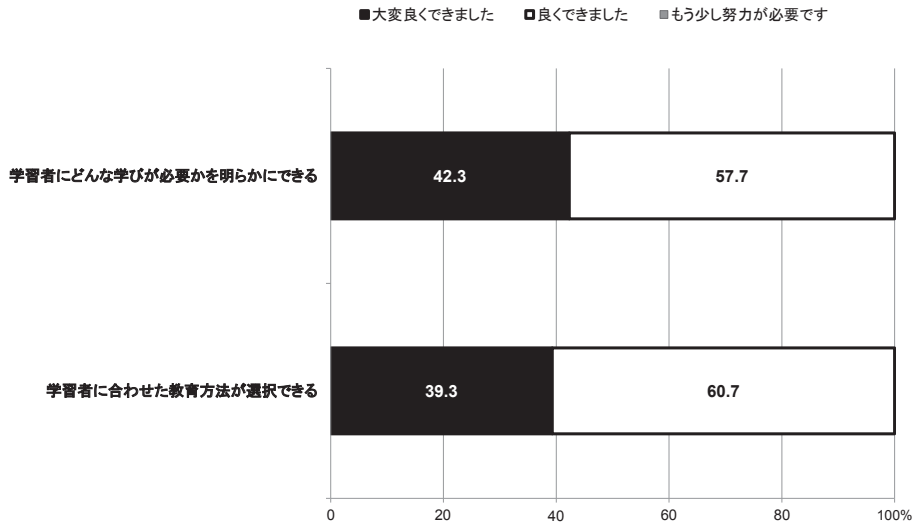


図 4. 看護セミナー指導者の評価 N=30

だったと肯定的な評価が多かった。一方、「臨床看護師が教育力を高めるための課題は何か」に焦点をあてて分析すると、受講生が現時点で必要とする知識なのかの判断ができない表現があった、教授内容の正確性や根拠に疑問の残る点があった

など「教授内容の信頼性」、実施者が主導権をとってグループワークを進めていた、受講生の質問に対する回答のフィードバックがなかった、学習者が回答に迷った時に即答していたなど「学習者の思考を促す教育方法」、教材の説明が不足してい



るためにテーマとの関連が理解しづらかったなど「授業展開における効果的な教材の用い方」に関する3つの課題が抽出された。

## 2. 実施者の看護セミナー体験の臨床への活用状況

実施者が看護セミナー体験を臨床にどのように活用したかを、報告会1か月後に提出した学習カードから抽出した。その結果、「看護師教育にコーチングやデブリーフィングをできるだけ使うようにした」、「言葉だけの指導ではなく、意識して一緒に実践するようにした」など、看護セミナーの過程で組み込まれた教育内容や教育指導のスキルを臨床の看護師教育に活用していた。また、「看護師への指導を振り返って教育課題を見いだし、次の教育にいかすことができた」という報告があった。

## 考 察

東北大学「看護キャリアプロモート支援システム開発～臨床看護師の教育力向上とキャリアパス構築支援」の教育指導者育成プログラムの一企画である「看護学生を対象とした看護セミナー」の評価を分析した結果、自己評価および他者評価は高かった。また、看護セミナー体験の臨床への活用状況は、学習理論や体験を臨床の教育実践に意識的に適用している様相が確認できた。ここでは、看護師の教育力向上のために実施した「看護学生を対象とした看護セミナー」の評価とその後の臨床における活用状況から、臨床看護師の教育力育成と課題について考察する。

### 1. 臨床看護師による看護学生を対象とした看護セミナー企画と教育力育成

臨床看護師の教育力を高めるために企画した看護学生を対象とした看護セミナーは、学習者に必要な教育内容や学習者に合わせた教育方法を選択し、その教育活動のプロセスを報告するまでを目標とした。教授活動は学習者の状況分析から始まり、授業の設計、授業実践、授業評価というサイクルをまわしながら展開していく<sup>1)</sup>。そのサイクルの始まりである学習者の状況分析は、その後の教授内容の選択に影響する重要な段階である。看

護セミナーでレディネスが均一化した看護基礎教育課程の学生を学習者として選択したことは、教育目標や学習者に必要な知識、技術の把握が比較的容易であり、教育プログラムの企画として適切だったと考える。

本教育プログラムには、看護セミナーの企画と並行して学習者のレディネス把握に関する講義や、大学で受講者が受ける授業聴講を組み入れた。これらの教育内容は、実施者が学習者である受講者を理解する準備状況を作り、学習者に対する関心を高めるのに有効であったと考える。それは看護セミナーが「学習者のレディネスを考慮して教育方法を選択した」という実施者の評価や、受講生の「セミナーの内容は難しすぎることも易しすぎることもなかった」「テーマは自分の学びたいニーズにあった」という項目の評価が高かったことから言える。看護師の教育力向上のためには、学習者の状況分析に必要な知識や教育スキルを教育プログラムに組み入れることが有効である。今回のセミナー受講者となった看護学生の準備状況を把握し、分析する機会は、研修の場だけでなく、臨地実習生や新人看護師との関わりによる観察や経験によっても可能であった。指導者は、どのような場面で学習者の準備状況を把握する機会になるのか等について示唆を与えることが必要である。

看護セミナー前に実施した「プレ看護セミナー」は、看護師の教育力をあげるために必要なプロセスであった。プレ看護セミナーではセミナー実施者が他グループの受講者となり、互いのセミナー展開についてフィードバックし合った。その体験が、受講者の立場になってセミナーの展開を考えると、自己の教育方法の客観的な振り返りを促進し、看護セミナー内容および方法のブラッシュアップにつながり、教育力を高めていたと考える。

また、看護セミナー終了後の報告会におけるディスカッションや他の受講者および指導者からのフィードバックは、自己の指導方法を肯定することや新たな課題を見出すことになり、臨床で教育実践する際の自信や動機づけになっていた。さ

らに、教育指導者育成プログラム全般を通して、学習カードの記載で意図的に“実践と内省のサイクル”を繰り返したことは、集合教育での学びを実践に活用しなければならないという意識を定着させ、看護セミナー体験を臨床への活用へ導くのに役立つと思われる。

## 2. 臨床看護師の教育力育成における課題

「臨床看護師が教育力を高めるための課題は何か」を視点に質的分析した結果では、看護セミナー指導者による評価が高かったものの「教授内容の信頼性」、「学習者の思考を促進する教育方法」、「授業展開における効果的な教材の用い方」が課題として抽出された。「授業展開における効果的な教材の用い方」の能力不足は、集団教育の経験が少ない看護師の教育評価として当然であろう。しかし、「教授内容の信頼性」と「学習者の思考を促す教育方法」は、臨床における看護専門職業人育成の教育に重要な要素であることを意識化させる必要がある。「教授内容の信頼性」を考えると、看護学実践を伴う教育力は、特に初期教育段階の学生には、正確で最新の知識を提供する責任がある。看護師の教育力育成プログラムの教育にあたる指導者は、実施者が学習者に提供する医学・看護学の知識の正確性をどれだけ吟味しているかをプレセミナー等の機会に確認する必要がある。それが「教えることは学ぶこと」の意味を看護師が再認識する機会になろう。一方「学習者の思考を促す教育方法」は、学習者が能動的、積極的に学習に取り組み、より深く学習し、生涯にわたって学習できるような技術・スキルを身につけさせる教育として重要である<sup>5)</sup>。「教授内容の信頼性」や「学習者の思考を促進する教育方法」の課題を克服するためには、ファシリテーションのスキルを使う機会を看護師が増やし、経験から学んでいくことを支援していく必要がある。

実践を伴う看護学の教育力は、専門領域の知識を中心とした狭義の教育力と、実践の力（技術）、それを学問として根拠づけるための研究力、これら教育・実践・研究が常に循環した関係の中から生み出される総体であると言われている<sup>6)</sup>。また、看護師が看護師としての良さを発見し体得してい

く経験には、他の看護師モデルを観察し、経験で得たものを自己の生きた学びにしていく要素があると報告されている<sup>7,8)</sup>。看護師が臨床で教育力を培っていくためには、臨床が教育・実践・研究を循環させる教育環境をつくり、教育力を伴う看護師がモデルとして存在する臨床環境が求められる。その意味で、教育プログラムで培った教育力を持つ看護師が、基礎看護教育への参画や看護セミナーの教育実践など教育指導者として自他ともにキャリアプロモートしていくことは、臨床の教育環境づくりの一助になると考える。本教育指導者育成プログラムは、「自ら学ぶ姿勢を持ち続け、自ら率先して課題に取り組むことができる」を目標の一つとしていた。看護師の教育力向上のためには、今回の経験を実践にさらに活用していき、教育力を高める主体的な学びを促進する支援の強化が今後の課題である。

## 結 論

東北大学「看護キャリアプロモート支援システム開発～臨床看護師の教育力向上とキャリアパス構築支援」の教育指導者育成プログラムの一企画である「看護学生を対象とした看護セミナー」の評価を分析した結果、看護師の看護学生を対象とした看護セミナーの自己評価および他者評価は高かった。また、看護セミナー体験の臨床への活用状況は、学習理論や体験を臨床の教育実践に意識的に適用している様相が明らかになった。これは、看護セミナーでレディネスが均一化した看護基礎教育課程の学生を学習者として選択したこと、実施者のセミナー企画と並行して企画に必要な講義・演習が組み込まれていたこと、教育プログラムが実践能力を基盤にした教育スキルを身につけられるように段階的に計画されていた結果を示すものである。教育プログラムで培った看護師の教育力を臨床で活用し、教育力を高める主体的な学びを促進する環境づくりが課題である。

## 謝 辞

調査にご協力いただきました看護師、看護学生、本教育プログラムの指導者の皆様に深く感謝申し



上げます。なお、本調査の要旨は、第 44 回日本看護学会－看護教育－学術集会で報告した。

## 文 献

- 1) 森田敏子：看護教員及び研修を企画する看護職の教育力を高めるインストラクショナル・デザイン、熊本大学学術リポジトリ, 141-151, 2009
- 2) 文部科学省 HP「看護職キャリアアシスト構築プラン」[www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/1279540.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/1279540.htm) (2013.12.18)
- 3) 菅原美知子, 川原礼子, 平野かよ子, 鈴木由美, 門間典子, 佐々木百合花, 岡村由紀子, 早川ひと美：東北大学看護キャリアプロモート支援システム開発－臨床看護師の教育力向上とキャリアパス構築支援, 看護管理, 21(2), 154-157, 2011
- 4) 大河原知嘉子, 西村礼子, 大黒理恵, 齋藤やよい：テキストマイニングを用いた教育的役割を担う看護師の考える教育力の特徴, 医学と生物, 157(5), 655-663, 2013
- 5) Tanner, C.A.：学習者の個性に応じた看護教育, 日本看護学教育学会誌, 10(3), 39-49, 2000
- 6) 渡部尚子：今, なぜ看護教育が問われるのか, 日本看護学教育学会誌, 15(2), 59-62, 2005
- 7) 小野美喜, 小西恵美子：臨床看護師が認識する「よい看護師」の記述－若手看護師の視点, 日本看護学教育学会誌, 18(3), 25-33, 2009
- 8) 山本裕子：アメリカの看護教員の視点からみた良い看護教育ストラテジー, 日本看護学教育学会誌, 19(1), 61-69, 2009